

創立98周年記念式・記念講演会

去る6月7日(木)午後2時5分より、母校創立98周年記念式が体育館で開催された。

大正9年(1920年)2月12日に文部省より、福岡県立八女工業学校を八女郡羽犬塚町に設置する告示がなされている。同年4月開校時の定員は、機械科150人、電気科150人、採鉱科150人の計450人。

記念式では、校長式辞のあと、同窓会長、PTA会長が祝辞を述べられた。創立百周年を2年後に迎える。



創立98周年記念式

午後2時半より卒業生による記念講演。講演者は昭和45年土木科卒の鶴崎恒雄氏。現在、(独)国際協力機構(JICA)の専門家として、アフリカのエリトリアで高等教育を中心に日本の援助を担当されている。講演の主な内容は下記の通り。

八女工業高校卒業後、父が営む建設業を受け継いだ。1985年、2年続きのエチオピア北部の大旱魃をBBCが報道していた。朝もやの中に無数に転がる石ころのような黒い塊、生きる尊厳を奪われ起き上がることもできない人間の姿。その映像は衝撃的であった。仕事は順調だったが、その順調さにももの足りなさを感じていた頃、同じことなら、あんなところで仕事ができたら遣り甲斐があるのではないかなと思った。卒業から15年が経っていた。



翌年、青年海外協力隊に参加し、モロッコの市役所へ土木施工隊員として派遣され、測量や設計・製図を教えた。そしてもっと勉強がしたくなり、アメリカの2つの大学に6年間留学した。アメリカでは努力すれば報われることが多く、学部・大学院とも上位の成績で卒業できた。

JICAの仕事に就いてから、民族紛争後の支援でボスニア・ヘルツェゴヴィナでの都市バスの供与や学校復旧の企画、セルビア共和国の隣国マケドニアでの難民のための緊急医療機材の供与などを担当して



きた。紛争国の民族主義に凝り固まった政府要人との交渉は、暗礁に乗り上げることも多い。しかし、当たって砕けるしかないと思っていると、何とか打開の糸口が見えてくる。そして彼らの後ろにいる沢山の貧しい国民のことを、いつも忘れないようにしている。

国際協力は、相互信頼の上に成り立っている。しかし私はエリトリアから二度も追い出された。それは、合意していない日本からの援助を強要されNOと答えたから。それでもここに戻ってきたのは、この国がどうしてもあの大量餓死の映像と重なるからである。それは私の国際協力の原点。

感動することは大切なこと。その時、なぜ自分は心を動かされたのか、自分に正直によく考えてみてほしい。その中には、自分を将来に

わたって成長させてくれる大切なものが沢山含まれている。また、人間の能力は無限であると信じている。一度に大きなことは出来ないが、少しずつだったら向上していける。ハエ卒業時の成績はクラスの真ん中だった私が敢えて申し上げたいのは、皆さんの大部分は、アメリカの一流大学で上位になれる程の可能性を秘めているということ。頑張ってください。



生徒代表者謝辞



花束贈呈



退場される鶴崎氏

